



■学校いじめ防止基本方針改訂 (8月16日)

北海道いじめ防止基本方針がこのたび改定され、本校の「学校いじめ防止基本方針」を点検・見直ししました。生徒たちが意欲を持って充実した高校生活を送れるよういじめ防止に向け、日常の指導体制を定め、未然防止を図りながら早期発見に取り組みます。いじめの要因や内容、校内研修の実施などを変更しました。地域住民の皆さまから容易に確認できるようにホームページ(「生徒保護者への連絡」ページ)に掲載しています。

■夏休み明け全校集会 (8月18日)

全校集会では、佐瀬雅彦校長の講話を始め、教務・環境部長の黒田教諭と進路指導主事の石畝教諭から、学年ごとに夏休業明けの前期後半の学校生活を生徒一人ひとりが主体的に送るためには、どのような点に留意しなければならぬかについてお話がありました。その後、情報処理技能検定などの表彰伝達を行いました。



夏休み明け全校集会

近年、陸上競技のインターハイ出場や厚真町イングリッシュキャンプ参加など、厚高生の活躍が徐々に目立つようになってきています。これからも充実した高校生活となるよう期待しています。

■北海道シエイクアウト訓練 (9月6日)

本校では、毎年欠かさず一般参加型の「北海道シエイクアウト」訓練に参加しています。

関東大震災から100年、胆振東部地震から5年を迎えた今年の訓練は、大規模な地震が発生し、北海道全域で大きな揺れを感じたという想定。校内放送で①DROPO(まっ低く)②COVER(頭を守り)③ELOWON(動かない)を指示すると、全校生徒は迅速に行動に移しました。防災リテラシーの向上を目指して、取り組みを継続していきます。

魅力的な生活

「魅力的な高校って何だろう」という素朴な疑問から始まった高校魅力化プロジェクト。当初の高校生活の充実という視点は、厚高生が「地域と共に魅力を創出」という視点に変わり、発展的に変化しています。地域住民の理解と協力も広がりました。

8月19日に「よりみち学舎プレゼンツ あつまで科学館」という地域住民向けのイベントを開きました。科学館の無い厚真町で、気軽に実験を体験してもらう催しです。いくつか用意した実験の中で、厚高生は「巨大シャボン玉に入ろう」と「動くスライムづくり」を担当しました。

巨大シャボン玉では、シャボン玉の中に入っていた子どもたちが、大きなシャボン玉作りに挑戦しました。すぐに割れてしまう子どもたちに対し、力加減などを調整しながら大きなシャボン玉を作る厚高生は、子どもたちの尊敬の的です。大きく作るコツを伝える光景は、授業さながらでした。また、砂鉄の配合を変えたスライムを作り、磁石を使って動きの違いを比べた実験では、子どもたちと一緒に一喜一憂しました。

今年は、学校や塾から地域へ出向く機会が多くなり、屋外で活動していると地域住民に声を掛けられるようになりました。学校生活に加えて地域社会とのかかわりが、厚高生たちの充実感を育んでいます。変化する「よりみち学舎」の今後が楽しみです。

教育魅力化支援員 山中 卓也

巨大シャボン玉に
包まれる小学生

よりみち通信



「よりみち学舎」は厚真高校と地域が連携しながら放課後を利用して生徒が自ら目標を発見し挑戦する公営塾です。